

令和元年度（2019年度）第2回
北海道中山間ふるさと・水と土保全対策委員会 議事概要

日 時：令和元年（2019年）12月13日（金）13：30～15：30

場 所：道庁7階 農政部第一中会議室

出席者：別添「出席者名簿」のとおり

次 第：別添「次第」のとおり

議 題：議題1 地域活動支援事業について

議題2 研修事業について

議題3 令和2年度（2020年度）～令和5年度（2024年度）の事業実施計画等について

議 事：

（1）議題1 地域活動支援事業について

ア 事務局から資料に基づき説明

イ 質疑応答（・無）

[厚床地区]

小林委員) 本来であればワークショップを3回行っているはずであったが、地元で不幸があり、1回開催ができていない。前年度、防災キャンプとして実施した活動を今年度は北海道教育大学釧路校と連携して行う通楽合宿として、令和2年1月18日（土）～19日（日）で実施予定。

北海道教育大学釧路校に厚床出身の学生がおり、その学生をサポートするような形で、地域が連携しながら進めている。

あっとこ農園は、「町の高齢者が管理して、そこに子供たちが通い交流が生まれる」という当初の目的どおりにはなっていないが、新規就農の酪農家や厚床小学校長が協力してくれて、管理をしている。また近隣の養護施設から農園に関わりたいという話も出てきている。当初は AB-MOBIT と厚床地区連合町会の役員くらいしか参加していなかったが、地域との繋がりができつつあり、若い世代も出てきている。

大熊委員) 支援事業は昨年からの採択だが、地域住民活動は、それ以前からやっていたのか。

小林委員) 前から活動していたのは AB-MOBIT の方々がフットパスを整備していただけで、地域の方を巻き込んで活動を始めたのは昨年から。

大熊委員) 資料3の年度ごとの予算額では、合計金額が入るようにならないか。

事務局) 令和2年度からの事業実施計画で、様式を変更し合計金額が入るようにする。

大熊委員) 活動報告では、写真があると分かりやすいので、写真の掲載された資料

をおねがいしたい。

[上ノ国地区]

小西委員) フードデザイン科の授業では、どのような料理を授業で作ったのか。

事務局) 確認して報告する。

大熊委員) 町内の料理屋に試食してもらい審査をしてもらうということか。審査した結果、料理として出してもらうということか。

事務局) そのように聞いている。

山本座長) 11 ページの「活動の内容」に活動体制の強化とあるにもかかわらず、12 ページの「3年間の活動プロセス」の今年度、次年度の欄が空欄だが、活動体制は既に整っているということか。元々JAのやるべき普及活動をふる水事業で行うような地区で、活動体制が弱かったはずだが。

事務局) 和菓子職人や上ノ国高校と連携をしたことで道の駅でキヌサヤ大福が販売され始め、来年2月には地元の親子を対象とした料理教室を開催する予定である等、当初よりは連携はできていると考えている。

山本座長) 11 ページでは活動報告会を年1回開催するとあるが、12 ページが空欄になっている。活動計画と事業計画が合っていないので、活動報告会を行うとすれば誰が対象なのかを含め確認をおねがいしたい。また、4年目以降も同様に活動を行うのか、その場合の原資はどうするのか、合わせて確認をお願いしたい。

大熊委員) ふる水事業でできた繋がりを4年目以降にどのように生かすか。計画があるのか確認をお願いしたい。

事務局) 確認して報告する。

[由仁地区]

山本座長) 7月の意見交換会では、交流イベントとして昨年までハロウィンイベントを行っていたが、今年からはクリスマスイベントを開催するという話だった。また、WEAVEは40才の年齢制限を設け、代わりに新しい人にどんどん入ってもらおうという方針。

事務局) 40才で卒業したメンバーが数人いて、そこでまたグループを作るというような話も出ていた。

大熊委員) 道外から来た人がいて、若くて勢いがある元気で、それぞれに個性がある。それを生かしながら活動している。活動については、やりたいことを盛り込みすぎていることは自分たちでも認識していた。まだ、どういう方向性で進めるかというところまで至っていなかった。

山本座長) パッケージ化という話が出ていたが、どうなっているか。

事務局) 確認して報告する。

大熊委員) グループでカード作ったりもしているが、デザインは非常に良いセンス

をしている。既にあるパッケージも良い。

小西委員) 農業従事者の奥様のグループなのか。

大熊委員) そのとおり。

山本座長) 意見交換会では、「農家の嫁」以外の人も誘ってはどうかという話をした。

大熊委員) 仲間意識というか、同じ層でやっていきたいという感じが強かった。イベントについては、「何でも全員で」から「役割分担を」という感じになりつつあるようだった。

山本座長) レシピ開発については、何かあったか。

事務局) 確認して報告する。

小林委員) 何のレシピなのか。

事務局) 乾燥野菜を用いたレシピと聞いている。

大熊委員) 道の駅で売るという話も出ていたが、現状は乾燥野菜の製造量が頭打ちになっているとのことだった。

小西委員) 彼女たちと同じように子育てしながら働いている女性は少しでも料理時間が短くしたいと思っているので、時短料理にテーマを絞ってレシピ集を作ると良いかもしれない。忙しい彼女たちが日頃から作っている時短メニューなど。

山本座長) 良いアイデアだと思うので、WEAVE の皆さんに今の話を伝えてほしい。

事務局) 承知した。

山本座長) 地域活動支援事業全体で何かあれば。

事務局) 平成 28 年度より cookpad 北海道公式キッチンを開設し、道産食材を使用したレシピの掲載や、ブログ「ごはん日記」に北海道の食に関する情報を投稿している。担当課から掲載できるメニューの募集があり、上ノ国高校が作成したサヤエンドウレシピを提出しているところ。

(2) 議題 2 研修事業について

ア 事務局から資料に基づき説明

イ 質疑応答 (有・無)

山本座長) 「子供都市・農山漁村交流体験活動」による地域づくりという研修は、単発で開催されるものか。

事務局) 単発ではなく、いわゆる子プロに携わる方を対象に毎年開催されている。

山本座長) 指導員 1 名とは、誰が研修に行ったのか。

事務局) 小野寺会長。本人から、農村である当麻町と留萌方面の漁村で子供の交

換留学のようなことを検討しており、そのために研修に行きたいと申し出あった。

山本座長) 指導員会では、全国研修会や「子供都市・農山漁村交流体験活動」による地域づくりの報告もしてもらうのか。

事務局) 時間を取って報告してもらうことにする。

(3) 議題3 令和2年度(2020年度)～令和5年度(2024年度)の事業実施計画等について

ア 事務局から資料に基づき説明

イ 質疑応答 (有・無)

山本座長) 棚田基金とは何だったか。

事務局) 農水省の要綱では、ふる水基金と棚田基金の2つがあり、北海道は両方で基金を積んでいる。棚田基金は、棚田地域の振興のために使う基金である。

山本座長) 基金は、いくら積んでいるのか。

事務局) 棚田基金は1億円、残りがふる水基金。基金としては分けて考えているが、事業の執行は2基金を合わせて行っている。

小林委員) 地域活動支援事業の予算が、毎年360万円です。年6地区となっているが、どういう意味か。

事務局) 毎年2地区を採択して、3カ年の事業を行うとすると、毎年6地区が地域活動支援事業の対象になるということ。

小林委員) 毎年1地区60万円の予算ということか。

事務局) 平均するとそうなる。後で説明するが、基金に関する情勢が変わってきており、予算額は現時点の額より少し増える見込み。秋に次年度の予算の要望取りまとめ、予算額を超えるようであれば、調整が必要だが、今の状況であれば問題ないと思う。

大熊委員) ほぼ予算どおりでやれるということか。

事務局) そう考えている。

山本座長) 研修事業については、指導員が出席しやすいように日程を決めてもらえれば良いと思う。

5 その他

(1) 北海道新聞に掲載された基金廃止に関する記事について

①ふる水基金は、果実運用型から取り崩し型に変更することから将来廃止される基金として報道された。②事業費は、今までよりも若干増額する方向で調整中。

(2) 地域活動支援事業で採択見込みの地区について

今年度中に十勝総合振興局管内の本別町を意識醸成地区で採択する見込みであることを報告した。

(3) 第3回委員会について

令和2年(2020年)3月18日(水)13時30分から行うことで調整した。

(4) 意見交換会の日程について

今年度の意見交換会を実施していない地区について、厚床地区は防災キャンプに合わせて行えないか日程調整を行い、上ノ国地区は地区と日程を調整した上で委員へ案内することとした。